

■岡倉天心(覚三)

おかくらてんしん
生妻事件・・・1862＝

美術思想家。官僚として{東京美術学校}創設，俊材を育成するも排斥され，以後，思索と海外活動に。

越前福井藩を背景に横浜で貿易を営む石川屋勘右衛門の次男に生まれた。

幼時から英語を学び，漢籍にも親しんだ。

明治維新・・・1868＝6歳：弟由三郎が誕生。

初の日刊新聞1870＝8歳：妹蝶が誕生。

廃藩置県・・・1871＝9歳：

明治6年政変 1873＝11歳：東京日本橋蛸殻町に引越し，東京外国語学校に入学。

初の民間工場1875＝13歳：兄港一郎が死去。東京開成学校高等普通科に入学。

西南戦争・・・1877＝15歳：_東京大学文学部第二年普通科に編入となり，政治学，理財学などを学ぶが，
_そこでアメリカ人教師フェノロサに接し，その日本美術研究を手伝ったことが生涯を方向づける。

琉球処分・・・1879＝17歳：「三匠堂詩草」。もともと結婚。

・・・1880＝18歳：***東大を卒業，文部省に出仕して音楽取調掛を命じられたが，まもなく図画教育調査会委員に挙げられ，古社寺宝物調査にもたずさわって，美術行政面に頭角をあらわしはじめる。**

明治14年政変1881＝19歳：長男一雄が誕生。漢詩「南都懷古」。兼務のまま，専門労務局へ異動。

新体詩抄・・・1882＝20歳：内記課勤務。_「書ハ美術ナラスノ論ヲ読ム」を執筆，以後，次々評論を発表し，講演を行う。

秩父事件・・・1884＝22歳：長女高麗子が誕生。

帝国大学始・・・1886＝24歳：_東京美術学校設立を準備する図画取調掛の主幹を命じられ，フェノロサらと欧米を視察して，

国民之友始・・・1887＝25歳：_帰国し，東京美術学校幹事に就任。

初の対等条約1888＝26歳：臨時全国宝物取調局委員，

帝国憲法発布1889＝27歳：_帝国博物館理事兼美術部長。高橋健三と諮って雑誌「国華」を創刊。美術学校が上野に開校，

帝国議会始・・・1890＝28歳：***その校長になり，華々しい前半生の活動期を迎える。**
横山大観，下村観山，菱田春草，木村武山らが膝下で育つ。

郡司千島探検1893＝31歳：中国に出張。

日清戦争始・・・1894＝32歳：

新しい日本画の創造にあたって，極端な保守主義や欧化主義を排し，東洋の伝統をふまえて進取発展する道をとるとというのが，天心の立場であった。こうしてその運動は順調に展開するかにみえたが，

子規句歌革新1898＝36歳：***美術学校に校長天心を排斥する騒動が起こり，頓挫をきたすことになった。天才的で豪傑肌の天心の独断専行が一部の者の反感を買ったのである。職を退いた天心はその年，橋本雅邦をはじめ自分に従って学校を辞した教員らと谷中に日本美術院を創設，従来の運動をさらに活発に進めることにした。実際，開院と時を同じくし，日本絵画協会と連合で開いた共進会はすこぶる盛況であった。しかし好調は続かず，**

田中正造直訴1901＝39歳：この頃には沈滞に陥り，熱意を失う。インドに渡り翌年秋まで滞在。_以後，美術運動の指導者というより，思索の人と呼ぶのがふさわしく，国外に出ることも多くなる。この間にビバーク・ナンダと親交を結び，英文で「東洋の目覚め」を執筆。これは生前出版されずに終わったが，

日比谷公園・・・1903＝41歳：「東洋の理想」がロンドンで刊行されている

日露戦争始・・・1904＝42歳：_大観，春草，六角紫水を伴って渡米，ボストン美術館中国・日本美術部に迎えられる。この年ニューヨークで出版した「日本の目覚め」は好評を博し，

日露戦争終・・・1905＝43歳：帰国した。同年再び渡米，

満鉄発足・・・1906＝44歳：_衰微していた日本美術院を五浦に移し，読書と釣りに日を送ることが多くなり，失意の人として内面が，この年出版された「茶の本」に表れている。以後ボストンと茨城県五浦の別邸とを行き来することになる。

韓国反日暴動1907＝45歳：

大逆事件判決韓国併合・・・1910＝48歳：_ボストン美術館中国・日本美術部長に就任，

1911＝49歳：帰国して，

明治天皇没・・・1912＝50歳：_文展審査委員就任したが，

大正政変・・・1913＝51歳：慢性腎炎に尿毒症を併発して_没した。